JST-TRUST

～動き出した研究セキュリティの確保の取り組み～

橋本 和仁

2026年6月2日

国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

科学技術・イノベーションをめぐる現状認識

- AIなどの先端科学研究の急激な進展がすすむ中、**科学力は国力の源泉**であるとの認識が世界各国で共有

- 研究力の強化には国際共同研究をはじめとする国際連携の強化や国際協力の推進が極めて重要

- 一方で、地政学的リスクが顕在化しており、経済安全保障や国家安全保障の観点から、重要技術の流出防止は、国益保護に必須

したがって、「オープンな国際連携」と「技術流出の防止」を両立するため、研究セキュリティの確保が不可欠

欧米主要国の共通認識とJSTの先導的役割

・欧米主要国（米、英、加、仏、独）において、研究セキュリティ確保の取り組みは国際研究活動において必須であるという共通認識

・これらの取り組みの根底にあるのは、研究成果の悪用や盗用から研究者を守り、アカデミアの自由・透明性・開放性を尊重するという理念

・特定の国や国籍に対する差別を回避することが必要

・「Small yard & High fence」および「As open as possible, as closed as necessary」の原則に基づき、リスクを軽減

・各国で政府の構造や歴史的背景等を踏まえ、政府とアカデミアで対話を行いつつ、**研究現場で実行可能**な取り組みを検討/実行

・**日本においても上記の共通認識を共有し、JSTが先駆けて研究セキュリティに関する実効性のある対応を開始**

研究現場との対話（研究セキュリティシンポジウム）

・2025年3月12日、「研究セキュリティシンポジウム ～研究の自由、透明性、開放性と研究セキュリティの両立のために～」をJST主催（内閣府および文部科学省の後援）で開催 約800名参加

・研究の自由等の維持とセキュリティ確保を両立するために必要な取り組みについて議論を深める目的で開催

・前半は内閣府、文部科学省、米国NSFから登壇者を招き、国内外の政策動向やJSTの取り組みを紹介

・後半のパネルディスカッションでは、大学関係者や現場の研究者も交え、国際的な要請に応えつつ「現場での負担をいかに低減するか」「現場の研究者にセキュリティの重要性への理解をいかに醸成するか」を議論

・参加した研究者からは**「心配していたが、これなら協力できる」**との安心の声が多数。現場の理解と協力を得るための大きな一歩

JSTとしての「研究セキュリティ確保」の考え方

- 国益の保護
  ：重要な研究成果の意図せぬ流出の防止、
  強固な国際的な研究ネットワークの維持・発展

- 研究環境の確保
  ：研究の自由、透明性、開放性の確保

- アカデミアの信頼性確保
  ：研究者の意識醸成、研究現場への過度な負担回避に
  むけ、アカデミアと共同してセキュリティ確保を